

# ニンシとダラノッシ

ーパネルシアター版ー

(上演時間 約10分)

脇本ゆかり

## ●登場人物など／パネルの種類

ノッシ (濃いグレーの猫)

ダンドラノッシ (濃いグレーと白のだんだら(横縞)模様の猫。邪気で白い部分が濁る)

シロ (邪気で体が濁り、死んでしまつて天国にいる、白い猫)

シロの手 (二本の大きい手(前足))

アリ

ちようちよう

木

川

土

星

ニンゲン(男) (怒っている)

ニンゲン(女) (つんとした表情)

ニンゲンたちの足

台車

石

足あと

ナレーター

## ●あらすじ

ノッシとダンドラノッシは、同じお母さんから生まれたのら猫です。でも、考えることはまるで違っていました。何を見ても「とつ」と言うダンドラに、ノッシは問いかけます。「ニンゲンもとつといの？」と。天国にいるきようだいのシロの忠告も聞かずに、ニンゲンにいつて行つてしまふノッシとダンドラ。いつたい、どうなるのでしよう。

## ●作者より

「とつ」といという言葉は、幼い子どもたちには少し難しいかも知れません。でも子どもたちの柔らかな心のどこかに、ふわつと残る言葉のような気がします。ノッシとダンドラを通して、見るもの全てに温かい気持ちを感じて注ぐことの大切さを、たくさんの子どもたちが感じ取ってくれるといいなと思っています。

ノッシとダンドラノッシとシロ、三兄弟のこのお話は、同じサイズでシリーズ化していく予定です。

ナレーター

ノツシとダンダラノツシは、同じおかあさんから生まれたのら猫です。べつべつに育った二匹は、出会えたことがうれしくてうれしくて、いつもいっしょに歩くようになりました。

ノツシーN  
ダンダラーN

ノツシとダンダラ、歩く

二匹はなかよしでしたが、考えることはまるでちがっていました。ノツシは今日のおまんまをどうするかとか、どこで寝るかというのを、いつもまっ先に考えましたが、ダンダラはいっぼう変わっていました。

ある時、ダンダラは、アリの列をふんづけまいとして、ころんでしまいました。そうして荷物をはこぶア리를ながめて言いました。

ダンダラ、転ぶ  
アリーN

ダンダラ

とうといなあ。

ナレーター

またある時、ダンダラは、ノツシの耳にとまったちようちようを、じいっと見て言いました。

ちようちようーN

ダンダラ

とうといなあ。

ナレーター

そして、大きな木をあおぎながら、川に前足をつっこみながら、土の上でごろごろしながら、またたく星をみつめながら、ダンダラはその目をおもいきりとろんとさせて。

木、川、土、星ーN

ダンダラ

とうといなあ。

ナレーター

と、言うのです。

ノツシ

とうといって、どういうこと？

ナレーター

ノツシが聞くと、ダンダラは、たちまち首をかしげてしまいました。

シロ

神さまを感じてるっていうことだよ。そのものの中に。

シロ、上方にーN

ナレーター

空から、シロがささやきました。シロも、同じおか